

四明会たより

京都大学農学部四明會 2019年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 村上 章
(農学研究科長・農学部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして有り難うございます。四明會は学部308名、大学院修士課程311名、大学院博士課程53名の新会員を迎え、会員数は24,855名となりました。

縄田栄治 前研究科長より4月に研究科長・学部長を引き継ぎました。旧農業工学科を昭和53年に卒業し、工学研究科修士課程(土木工学専攻)を昭和55年に修了しました。宜しくお祝い申し上げます。

今年度早々の会員の栄誉をご紹介します。まず、4月17日に加納健司教授(応用生命科学専攻生体機能化学分野)が「酸化還元酵素触媒電極反応の基礎と応用に関する研究」により平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を、五十田博教授・中川貴文准教授(森林科学専攻協力講座・生存圏研究所生存圏開発創成研究系生活圏構造機能分野)が「極大地震で人命を失わず継続使用できる木造住宅の普及啓発」により平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)をそれぞれ受賞されました。

また、4月5日に開催された第90回日本農学大会にて、田尾龍太郎教授(農学専攻果樹園芸学分野)が「サクラ属果樹に特異な自家不和合性プログラムの発見とその園芸学的応用」により、杉山淳司教授(森林科学専攻協力講座・生存圏研究所生存圏診断統御研究系バイオマス形態情報分野)が「セルロースから木材に至る層階状構造とその多様性に関する研究」により、2019年度日本農学賞を授与されました。先生方には衷心よりお祝い申し上げます。

さて、本学では他の国立大学の例にもれず、運営費交付金の減少とともに教職員の段階的な定員削減が続いています。本学が持続的に教育・研究の水準を向上させ、恒常的に新たな学術を切り拓いてゆくためには、長期にわたって本学教員の年齢構成を適切に均衡させることが重要です。しかしながら、本学における定員内教員の若手比率は、過去10年の間、運営費交付金削減への対応等により目に見えて減少しています。若手教員は将来の教育・研究の担い手であるだけでなく、新たな学術を開く原動力となる大切な人材であり、本学として若手教員が減少している現状に強い危機感を抱いています。その施策として「若手重点戦略定員について」が平成30年11月27日の役員会において決定され、公募のうえ当研究科では、農学資源経済学系と生物生産環境学系に若手教員が配置されました。

さらに、農学研究科独自の対応策として、平成30年度から農学部教育研究基金を主要な財源に充て、35歳以下の若手特定教員4名の採用を開始しました。また、平成29年度より、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立させる職場環境の支援制度を開始しています。基金につきましては、名誉教授の先生方を初め、多くの会員からご寄付を頂戴しました。厚く御礼申し上げますとともに、今後の御支援を宜しくお祝い申し上げます。



会費納入のお願い

2019年度(2019年4月～2020年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票で納入くださるようお願いいたします。

今回から年会費1,500円に限りコンビニでの納入が可能となりました。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「2019年度四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

絵ハガキの贈呈について

会費納入者でご希望の方に、故上野民夫名誉教授(化37、2018年9月ご逝去)がお描きになった水彩画(5枚1組)の絵ハガキを贈呈します。アートポストカードでの仕上がりで農学部関連施設をスケッチしたものです。

申し込み方法は、封書で返信用封筒(長3封筒 切手92円貼付)を同封のうえ四明會事務局まで申し込んでください。

なお、四明會ホームページでカラー版が閲覧できます。



旧演習林事務室(農学部四明會事務局)(有形文化財)

同窓会たより

◎農学科 (KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ゆりの木会は4月18日に新入生歓迎会を行い、今年も多くの新入生を迎えました。また、6月1日には木津農場にて田植え会ならびに「さなぶり」を行いました。晴天に恵まれ、楽しい時間を過ごしました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、複数の人事異動がありました。2019年3月には栽培システム学分野の稲村達也教授が定年退職されました。また、同3月には果樹園芸学分野の赤木剛士助教が岡山大学へ、品質設計開発学分野の奥田綾特定助教が京都大学複合原子力科学研究所へ、植物生産管理学分野の鍋島朋之助教が山形大学へ転出されました。一方、2018年8月には植物生産管理学分野の西村和紗助教が、同10月には植物生産管理学分野の中野龍平准教授が、2019年4月には蔬菜花卉園芸学分野の田中義行准教授、品質評価学分野の石井統也特定助教が、同5月には果樹園芸学分野の西山総一郎助教が着任されました。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(吉川貴徳)

◎林学科 (クローネ会)

クローネ会の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成30年度は熱帯林環境学分野に小野田雄介先生が、環境デザイン学分野に東口涼先生が、それぞれご着任になりました。

平成30年度の京都大学森林科学公開講座は「森の達人・木の匠」をテーマに、11月10日、農学部総合館にて開催しました。午前は森林育成学分野・石原正恵先生の「長い目で森を観る」、生活圏構造機能分野・北守顕久先生の「伝統構法 力を伝える匠のかたち」、生物材料設計学分野・村田功二先生の「こんなことにも使える国産材」の講演がありました。午後は見学・実習で、熱帯林環境学分野・金子隆之先生の「スマホで作ろう! 樹木図鑑」、複合材料化学分野・上高原浩先生、樹木細胞学分野・吉永新先生の「洋樽づくりのひみつ」、生物材料設計学分野・仲村匡司先生の「木を潰して、戻して、曲げてみる」の3コースに分かれて行いました。中高生から一般の方まで66名の参加があり、多くの方にご好評をいただきました。同公開講座は、今年度は宇治・生春園研究所での開催が予定されています。

末筆ながら、皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(坂野上なお)

◎農芸化学科・応用生命科学科 (専攻) (六成会)

六成会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在では農学部応用生命科学科(農学研究科応用生命科学専攻)の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻の7研究室(分子生体触媒化学、分子微生物学、森林園遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理化学研究ユニット」)で構成されています。

平成31年度は学部1回生49名(留学生2名)、修士1回生77名(留学生7名)、博士1回生17名(留学生5名)を新たに迎えました。またこの1年間に多くの教員の異動がありました。3月末に細胞生

化学分野の植田和光教授、植物栄養学分野の間藤徹教授、応用構造生物学分野の三上文三教授の3人が退職されました。三先生方はそれぞれ京都大学iCeMS特定教授、京都農業の研究所株式会社、京都大学生存圏研究所特任教授としてさらにご活躍されています。また、植物分子生物学分野の山岡尚平助教は生命科学研究所准教授として転任となりました。一方、産業微生物学講座に上田誠客員教授と原良太郎特定准教授が、分子生体触媒化学分野に山口信次郎教授と増口潔助教、分子細胞育種学分野に中野雄司教授、発酵生理及び醸造学分野に岸野重信准教授、生物機能制御化学に村井正俊准教授と榎谷貴洋特定助教、植物分子生物学分野に安居佑季子助教と吉竹良洋特定助教、分子微生物化学分野に川本純准教授、そして細胞生化学分野の教授に私、木岡がそれぞれ着任または昇任いたしました。応用生命科学専攻では今後も教員の定年退職が続きますが、応用生命科学科/専攻の構成員一同が団結して難局を乗り越えていく所存ですので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

六成会の恒例行事である予餞会は、平成31年2月12日(火)に百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて盛大に開催されました。平成30年度もソフトボール大会が開催され、春季は発酵生理及び醸造学分野が、秋季は化学生態学分野が優勝しました。平成31年度の春季は、植物分子生物学分野が久々に優勝しました。六成会のもう一つの恒例行事である新入生歓迎会は入学式当日のガイダンス終了後にカンフォーラ(時計台正面)にて開催しました。六成会の動向や活動の様子はホームページ(<http://www.rikuseikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)でも紹介しておりますので、是非ご覧ください。今後とも六成会へのご支援を何卒宜しく申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(木岡紀幸)

◎農林生物学科 (南窓会)

南窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2017年3月の天野先生のご退任以来空席となっております、生態情報開発学分野の教授として、今年4月から日本典秀先生が着任されました。日本先生は本学大学院農学研究科農林生物学専攻(昆虫学研究室)を平成5年3月に卒業後、農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所に就職され、平成14年には「分子マーカーを用いたハダニ個体群構造と系統に関する研究」で学位を取得、農研機構・中央農業研究センターの上級研究員を経てのご着任です。在学中から一貫してハダニなど微小害虫防除技術開発のために、その生態学と生物的防除の研究を続けてこられました。

植物遺伝学研究室と栽培植物起原学研究室と植物病理学研究室の植物系3研究室での研究情報交換会を今年9月に開催することが決定しました。修士課程2年の学生にとっては後期が始まる直前に研究内容を振り返り、修士論文完成に向けてのラストスパートをかけるための丁度よい刺激となっているようです。3年連続の開催で、すっかり定例化した感があり、嬉しく感じております。

また修論と言えば、今年2月の修論発表会では昆虫生態学研究室と栽培植物起原学の学生4人が英語で発表されました。質疑応答にも英語で堂々と答えられました。留学生や外国からの研修員も増える傾向にある中で、たいへん立派な姿勢で素晴らしかったです。

会員の皆様には、お近くにお立ち寄りの際にはどうぞお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしております。

(海道真典)

◎地域環境工学科（洛水会）（旧農業工学科、旧農林工学科）

洛水会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。洛水会では、恒例の総会、講演会、懇親会を5月18日に執り行いました。2年前から取り組んでおります運営体制の見直しおよび財政状況の改善のため、昨年度は名簿を発行する代わりに、会報として教室だより、地域だより、総会報告、会則、卒業生・修了生名簿、新入生名簿のみの内容で冊子を作り、会員皆様にお届けいたしました。今年度は、隔年発行の洛水会名簿を作成し、皆様にお届けいたします。ですので、四明會への異動届だけでなく、洛水会への異動届もお送りいただきますよう、宜しくお願いします。

末尾になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(飯田訓久)

◎農林経済学科（洛友会）

洛友会の会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、洛友会からの四明會常任委員及び四明會委員を小田滋晃（昭和53年卒）と鏡島正信（昭和52年卒）が再度引き継ぎ担当することとなりました。よろしく申し上げます。また、小田はこれで3回目となりますが、四明會の副会長を今年度務めることになりました。

まず、昨年の四明會たよりのご報告以降の本教室の教職員の異動を簡単にご報告しておきます。寄附講座・農林水産統計デジタルアーカイブ講座の平成31年3月31日付け終了に伴い、特定准教授の山口幸三氏、吉田嘉雄氏が退職されました。次に、平成31年4月1日付けで農業食料組織経営学の講師として鬼頭弥生氏が赴任されました。

ところで、昨年の平成30年11月24日（土）に益川ホールにおいて4年ぶりに開催されました洛友会総会で、従来からの教室の教員を中心とした洛友会の組織運営の方式を、OB・OG諸氏中心の組織運営の方式に全面的に改革しました。この総会において、新会長として同年6月に農林中央金庫の理事長をご退任されました河野良雄氏（昭和47年卒）が選出されました。その他新役員につきましては、下段掲載の「京大同窓会農学部洛友会」のホームページをご参照願います。

これまで洛友会の様々な事業運営につきましては教室の教員を中心に行って参りましたが、この総会以降OB・OG諸氏が洛友会にかかる全ての責任を担うことになりました。そのため、真にOB・OG諸氏が洛友会を切り盛りし、持続可能としていく必要があります。そのためには、洛友会会員の皆様にはますます縦横の連携を密にしつつ洛友会の組織運営と今後の発展にご協力くださりますようお願い申し上げます。その上で、教室への格段のご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、洛友会総会は京都大学のホームカミングデイに合わせて毎年開催することとなりました。また、東京でも春に講演と懇親会を開催することになりました。ちなみに今年は、令和元年6月4日（火）に大手町・コープビル地下食堂で開催しました。以下、重要な情報を掲載させていただきます。

【本年度の洛友会総会について】

日 時：令和元年11月2日（土）午後3時30分より

場 所：農学部総合館西棟1階・W106教室

なお、W106教室横隣のW102教室では食料・環境経済学科・生物資源経済学専攻の展示（「京大に帰ろう、農・食・環境研究の今を知ろう」：午前11時00分～午後3時30分）が行われておりますので、ぜひご訪問下さいますようお願い申し上げます。

総会後の懇親会は、旧演習林事務室（ラウンジ）で午後5時30分より開催予定です。

また、今後のご案内は「京大同窓会農学部洛友会」のホームペー

ジに掲載いたします。経費削減のため郵送は行いません。ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/about/compete/faculty-dept/036.html>

(小田滋晃、鏡島正信)

◎水産学科（緑洋会）

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、昨年平成30年度応用生物科学専攻の海洋系（旧水産学科）における教員の異動では、海洋分子微生物学分野教授の左子芳彦先生がご退職されました。後任として私こと吉田天士が教授を拝命いたしました。旧水産微生物学研究室から引き継がれた本分野の発展に尽力いたしますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

令和元年6月14日、関東緑洋会が東京海洋大学品川キャンパスにて開催され、卒業生同士の楽しい交流の場となったとのことでした。また、緑洋会の主催で資源生物科学科および応用生物科学専攻の海洋系の学生・教職員で懇親会を課題研究(卒論)・修士論文の発表後に開催いたしました。一昨年から始まった本懇親会も、恒例行事として根付いてまいりました。卒業・修了を祝うとともに、緑洋会への参加も呼び掛けております。昨年度はかないませんでしたでしたが、今年度は本懇親会へ卒業生の皆様にもお声掛けする予定です。その際にはぜひご参加ください。

最後になりますが、緑洋会会員の皆様がたのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(吉田天士)

◎林産工学科（ユナリグナ）

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、複合材料化学（旧木材加工材料学）分野教授に生物材料化学（旧木材化学）分野准教授の上高原浩先生が昇任されました。そして、複合材料化学（旧木材加工材料学）分野講師の吉岡まり子先生が同分野准教授に昇任されました。また、寺本好邦先生が生物材料化学（旧木材化学）分野の准教授に着任されました。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行もここ10年ばかり止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ（URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>）につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科（専攻）（中陽会）

中陽会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年3月26日に学部・専攻修了生の歓送会が楽友会館において開催され、食品生物科学科4回生36名、食品生物科学専攻修士課程33名、同博士後期課程1名の新しい門出を祝いました。次いで

4月5日には同じく楽友会館において中陽会総会を開催するとともに、新入生の歓迎会を開催しました。新たに食品生物科学科1回生34名、食品生物科学専攻修士課程32名、同博士後期課程1名を迎えることができました。いずれの会も盛会で、学生と教職員の親睦を深める大変よい機会となりました。特に、若い感性と活力を持つ新しい力が加わることは、中陽会の伝統を更に発展させる上で、大きな喜びであります。また、昨年9月には博士課程1名と、農学特別コース修士課程で2名の留学生が修了しております。

教職員の異動もこの一年間で複数ございました。まず、本年3月31日付けで食品分子機能学分野教授の河田照雄先生が定年退職いたしました。さらに、2月1日付けで農産製造学分野准教授の中川究也先生が工学研究科化学工学専攻分離工学分野准教授に、また、4月1日付けで食品分子機能学分野特定准教授荒武先生が生存圏研究所森林代謝機能化学分野特定准教授に着任されました。また、4月1日付けで栄養化学分野教授として佐々木努先生が、生命有機化学分野准教授として塚野千尋先生が着任されております。また、6月1日付け生物機能変換学分野准教授として渡辺大輔先生が、7月1日付けで栄養化学分野助教として松居翔先生がそれぞれ着任されております。新たな境域・研究体制となり、更なる発展に日々努力しているところであります。

産学官でご活躍の会員の方々と情報・親睦を深める組織としての中陽会を益々発展させるため、今後も会員皆さまの格別なるご支援とご協力、そしてご指導を賜りますよう、何卒よろしく願いたします。末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(神戸大朋)

◎畜産学科 (はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系では、本年3月に久米新一教授(生体機構学分野)、山田雅保准教授(生殖生物学分野)が定年退職され、4月に太田毅教授(生体機構学分野)、池田俊太郎准教授(生殖生物学分野)、6月に横井伯英教授(動物遺伝育種学分野)が着任されました。以下は本年度はくび会副会長の清水裕哉君(畜産資源学分野・修士2回生)からの活動報告です。

昨年度の活動としては、平成31年3月25日にはくび会の総会を開きました。総会後には、応用動物系5分野(動物遺伝育種学・生殖生物学・動物栄養科学・生体機構学・畜産資源学)卒業生・修了生のために送別会が開催されました。また、5月の半ばから毎年恒例のソフトボール大会を行いました。自称優勝候補の畜産資源学はまさかの1勝2敗。しかし振り返ると僕が在籍した3年間、全て1勝2敗だったような気がします…。優勝はもはや恒例となった生体機構でした(聞くところによると7連覇だとか)。

はくび会の畑は今年も順調です。当初は一面にチューリップを植えてお花畑にするという案もありましたが、夏野菜カレーが食べたいとの一言で一蹴。まさに花より団子です。NF前夜祭の焼肉に関しては、なんと今年から出し物が変わる予定です。JK向きのタピオカミルクティーを出すという案から、おっさん向けに焼き鳥とビールでいいんじゃないかという案まで色んな意見が飛び交っていますが未定です。是非、お楽しみに。最近更新が滞っていたはくび会HPも今年こそは更新いたしますのであわせてご覧ください。(http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/)

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えております。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

(杉本実紀)

◎熱帯農学専攻 (熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成が終わりました。この間、日本の農業はたいして変わったという気がしませんが、熱帯の農業は随分と変わったように思います。熱帯にはもちろん伝統的な農業も残っていますが、日本以上のハイテク技術も導入され、もはや農業技術に地域格差はなくなったかの感があります。熱帯農学専攻が設立されたのが昭和56年、昭和でいわれても…ですよね、1981年です。最初の卒業生が1983年。1989年から平成ですから、熱帯農学専攻の歩みと平成の30年はほぼほぼ重なります。熱帯農学専攻は平成が終わる前に終わりましたけれど、国内的には失われた30年とかいわれる平成ですが、この間、世界の熱帯農業にどのくらい貢献できたでしょう。熱帯農業に対する一般のイメージはいまでもかなり古いままで、未開とか後発とかではないでしょうか。学生からも「熱帯に行かなくても研究できますか」という質問を受けることがあります。じつは就職活動を意識しての部分もあるのですが、熱帯で暮らすことへの漠然とした不安も無関係ではないでしょう。逆もしかりで、妙な固定観念があります。日本の優れた農産品は、めっちゃくちゃ進歩的な生産技術が支えているに違いないというイメージです。確かに日本の農産品は優れています。それを支えるのはじつはまったくハイテクとは逆の職人の名人芸という部分がかなりあります。経験と勘の世界です。そこはローテクの総本山。海外からの研修生が名人に弟子入りして修行を積んでも一向に悟りに至らないことに落胆して帰国するといったこともあるかもしれません。おっと、我々もそうなっていないか?

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

個人情報保護について

四明會名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じています。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

不要となった名簿の処分について

新刊が発行され、以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。(申し訳ございませんが送料はご負担願います。)

四明會活動報告

京大農学部卒業50周年記念同期生会（昭和43年卒業）

はじめに

去る平成30年11月2日に四明會の卒業50周年記念同期生会が開催された。場所は京都大学旧演習林事務室ラウンジ。

四明會事務局（以下事務局）から連絡があり学科ごとに世話人が選ばれて事前の会があった。出席したのは堀越孝雄様、梅田幹雄様、竹内典之様と私角田晃一の4名であった。事務局から当日の役割分担の説明を受け相談した結果「四明会たより」に同期生会について報告する役割を引き受けることになった。

昭和43年3月卒業生は188名で、出席したのは16名であった。

式典について

さて、式典は午前10時半に開始された。四明會副会長の飯田訓久様から開催の辞があり、続いて農業工学科の喜多毅様が「50年振りのことで本日ご出席の方々で覚えているのはA1で教室を共にした方々です。あれから50年元気に長く持ちこたえてきてよかったと思う。本日はおめでとうございませう。」とご挨拶された。

最後に四明會会長の縄田栄治様から、「私たちの入学の頃の農学部は七つの学科名であった。農学科、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農業工学科、農林経済学科、水産学科だったが、林産工学科、食品工学科、畜産学科が増えた。しかし、平成7年には三つの学科にしぼられた。そして平成13年にはまた改組があり六つの学科となった。それらは資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科、食品生物科学科となった。世の中の学問に対する要求が変わってきている。」と農学部の学科名の移り変わりと変遷についての説明があり、式典は終了した。

その後、希望者で学内を見学した。農学部正門はそのまま残っていた。しかし、研究棟の建物は昔の面影はなかった。続いて時計台のある建物や、旧教養部にも行った。旧教養部は立て看板がなくなりチラシの紙ゴミも散乱していなかった。立て看板は本学の名物、自由な学風の象徴と理解しているので大変残念なことだ。

懇親会について

懇親会はアピカルイン京都で開催。開会前に全員で記念撮影。

司会と進行は林学科の竹内典之様と農業工学科の梅田幹雄様で、開会前に物故者26名の方々に黙祷をした。開会の辞は農学科の栗山正隆様だった。「京大卒業50周年の会に皆様が集まった誠におめでたい会です。皆様が50年の長い間元気で過ごされたから集まれた、こういう会は大事なことです。これからも継続して大切にしてほしい。京大農学部を卒業して本当によかった。」と述べられた。

乾杯の音頭はアメリカ・シアトル在住の林学科小林竝一様だった。そして学科の斉唱に続き、出席した全員から卒業後歩んできた人生が語られ、思い出話に花を咲かせた。最後に農芸化学科神野英毅様より閉会のあいさつがあり、再開を誓って16時にお開きとなった。

[ご出席者の紹介]

※敬称は略

○農学科

栗山正隆、長谷川耕二郎、林千洋、

○林学科

小林竝一、竹内典之

○農芸化学科

神野英毅、高橋典夫

○農業工学科

梅田幹雄、喜多毅、中村健治、吉川和吉、松本久司

○農林経済学科

角田晃一、藤原敏之

○水産学科

高村基治、吉野哲夫

おわりに

卒業50周年記念同期生会のおたよりを書くために、林学科小林氏のことを思い出していた。「卒業以来、初めて会った人が多かった。皆さん昔話に花を咲かせておられたのが本当に楽しそうだった。僕は今も庭園作りに励んでいるけど皆さんそれぞれの人生で成功を収められたお話を伺って良かった。林学科の場合は一緒に行動することが多かった。京都の芦生演習林など、実習は樹木の種類と生態を説明してもらいながら、大学院生にも教えて貰った。楽しい思い出です。」と話しておられた。「京都議定書」を見て地球環境の保護に強い関心をもち、環境関係のNPO法人に入会し活動を始めたがサステナブルな人間社会を構築するには農学部の役割は大きいと考えている。

また翌日のホームカミングデーでは西園寺公の別邸を見学し、歴代首相が訪れた部屋や素晴らしい庭園を鑑賞できたのは嬉しかった。

四明會事務局の沖田さん、三田さんありがとうございました。楽しい時間を過ごすことができました。

（農林経済学科 角田晃一）



同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を昨年4月より開始しました。今回は3件の報告が寄せられましたのでご紹介します。

みなさまのご応募をお待ちしています。

昭和50年畜産学科入学の同窓会(自称「75会」)

昭和50年畜産学科入学の同窓会(自称「75(しちご)会」)を開催しました。2011年に第1回を京丹波町の附属牧場で開催し、昨年は京都の貴船に集まりました。昨年からは全員が60歳を超えたので「毎年集まろう!」ということで、今年(2018年)は23名中15名が参加して、9月1日に有馬温泉で一泊しました。個体によっては腹囲の増加や被毛の退潮などが観察されますが、健康状態もよく、思い出話に花を咲かせました。

参加者: 足立春彦、石井一弥、一瀬睦子、稲村典昭、高倉一美、高橋邦明、田代龍一、中澤賢悟、西川健太郎、藤中邦則、松山謙二、森田敏行、森本正隆、吉田英策、北川政幸先生

(畜54 藤中邦則)



昭和39年卒(教養A3組)「田園都市A3昼食会」

「多摩田園都市」は東急電鉄が1953年から始めた開発総面積5,000万㎡におよぶ大プロジェクトによって開発した地域です。東急「田園都市線」はこの多摩田園都市を貫く大動脈で、「溝の口～長津田」間が1966年開通し、その後順次延伸されて、現在では都心の「渋谷」と神奈川県内の「中央林間」を結んでいます。

現在、「田園都市沿線」に住む京大農学部昭和39年卒業生のうち教養A3組の同窓生13名が年2回「田園都市A3昼食会」と称して定期的に集まっています。

今回は、2019年1月17日(木)に開催し、全員が出席しました。

メンバーは、田園都市線「たまプラーザ」に住む農経卒の小田有久君、森英男君、私(安田稔)、「あざみ野」に住む杉江勘治君(以上いずれも横浜市青葉区)、「鷺沼」(川崎市宮前区)に住む太田裕君、「中川」(横浜市都筑区)に住む農化卒の西本昌道君。

田園都市線と並行して走る東急電鉄「東横線」沿線に住む農経卒の北川隆次君と渡部明男君。

横浜市戸塚区に住む農経卒の小林宏君、横浜市金沢区に住む農経卒の関谷正人君、藤沢市に住む農経卒の内田雅晃君、逗子市に住む農経卒の高木迪夫君、千葉市に住む農経卒の藤田元彦君。

この会は2007年8月1日、鷺沼に引っ越してきた太田裕君の歓迎会を、田園都市沿線に住む数名の仲間たまプラーザの中華レストランで行ったことから始まります。その後会員の範囲を広げ、現在のメンバーが集まるようになりました。

「継続することにするに意義あり」を第一義に、幹事・出席者ともに手間をかけず定期的・自動的に集まっています。場所は毎回同じ「たまプラーザ東急百貨店」5階の中国名菜「陳麻婆豆腐」。午前11時30分集合。昼食後は近くの「砂塚珈琲店」にて近況報告、情報交換、歓談。そして次回開催日を決めて散会です。



またメンバーで社会科見学も行っており、これまでに横須賀軍港めぐり、日吉台帝国海軍大地下壕、明治大学登戸研究所資料館、自衛隊富士学校開設記念行事、富士総合火力演習2013、こどもの国弾薬庫跡の見学などを行ってきました。

写真は今回「砂塚珈琲店」で撮影したものです。次回開催は2019年7月18日(木)です。

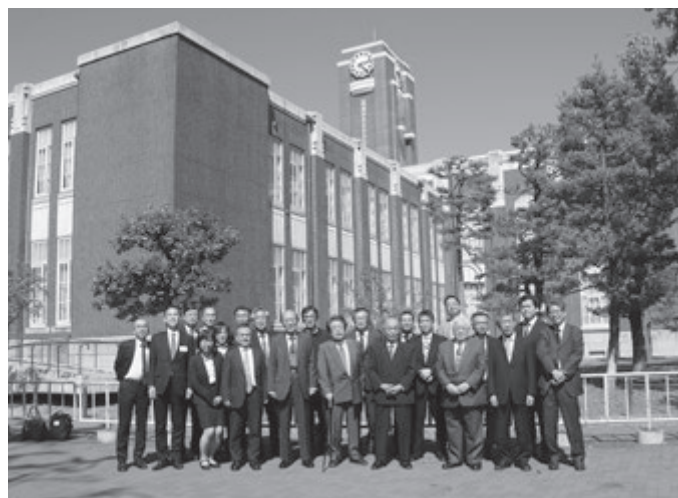
(経39 安田 稔)

農業工学科平成元年卒業30周年同窓会

会員の皆様方には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年4月20日に、恩師6名(丸山利輔先生、並河清先生、長谷川高士先生、高橋強先生、梅田幹雄先生、渡邊紹裕先生)のご臨席を賜り、平成元年卒業生(16名)の卒業30周年同窓会を時計台のフレンチレストラン「ラ・トゥール」にて開催いたしました。平成最初の年に卒業した同窓生が平成最後となる月に、母校に駆けつけ、恩師の先生方からいろいろなお言葉や励ましを頂くとともに、学生時代の写真を見ながら当時の話で大変盛り上がり、旧交を温めることが出来ました。

新たな令和の時代を迎え、私たち同窓生もこれからも頑張らねばと決意を新たにして、散会となりました。



参加者：飯田訓久、池田俊文、岩間憲治、植野栄治、大澤信司、加藤康生、川合規史、小林範之、佐藤照久、住貞正雄、高島雅哉、富森淳、中田拱子、西津貴久、林誠彦、山下仁、丸山利輔先生、並河清先生、長谷川高士先生、高橋強先生、梅田幹雄先生、渡邊紹裕先生

(工平元 飯田訓久)

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
 ②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること(開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する)
 ③学科同窓会が主催するものは対象外

【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

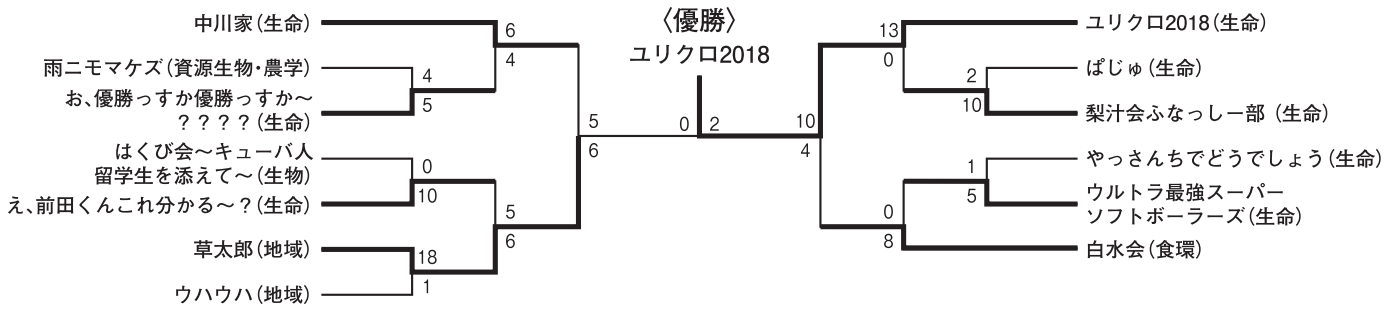
- 【手続き】 ①四明會事務局に上記の書類を添えて申請する。
 ②四明會事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい、あの場所を写真で見たい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。
 (締切随時、400字程度、写真があれば添えてください) E-mail:shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

平成30年度農学部ソフトボール大会結果報告



資源生物・農学→資源生物科学科・農学専攻
 生物→応用生物科学専攻
 食環→食料・環境経済学科

生命→応用生命科学科・応用生命科学専攻
 地域→地域環境工学科・地域環境科学専攻

優勝チームキャプテンからのメッセージ

応用生命科学科・専攻の選抜チームであるユリクロは昨年度に引き続き優勝し、連覇を成し遂げることができました。応用生命科学科・専攻からは例年以上の参加人数となり、嬉しい気持ちもある反面、その中でも選りすぐりのメンバーが集うユリクロを率いることに大きなプレッシャーを感じていました。



しかし、ユリクロのメンバーがプレッシャーのかかる試合でも、落ち着いてプレーをして活躍する頼もしい姿を見て、私自身も安心してプレーをすることができました。決勝では息の詰まる接戦をチーム一丸となって勝利することができ、キャプテンとしてこのチームを率いる事ができたことを誇らしく思います。選抜チームであるが故の、勝って当然であるという重圧を共に乗り越え戦ったチームメイトには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ソフトボールを通じて学年・研究室・学科を超えた交流ができました。今大会でできたつながりは今後の学生生活でもきっと大事なつながりになると信じています。

最後になりましたが、本大会を運営して下さった四明會事務局の皆様と学生の有志の方々に深く感謝申し上げます。また来年もこの四明會ソフトボール大会で素晴らしい試合ができることを心待ちにしております。

(秋田 智宏 応用生命科学専攻 修士一回生 (開催時))

ソフトボール大会後記

平成30年度四明會ソフトボール大会が10/9~10/24の間、農学部グラウンドにて開催されました。雨の影響からグラウンドコンディションの良くない日もありましたが、怪我をされた方もおらず、無事に大会を終える事ができました。

白熱したトーナメントの結果、決勝戦は「ユリクロ2018」(応用生命)対「草太郎(くさたろう)」(地域環境)の試合となりました。手に汗を握る投手戦が繰り返され、終盤までどちらが勝つかわからない接戦となりました。結果、少ないチャンスをものにした「ユリクロ2018」が2対0で「草太郎」を下し、大会2連覇を決めました。

3位には「中川家」(応用生命)、「白水会」(食料・環境経済)が入りました。ベスト4の内、3チームが女性ピッチャーを率いるチームであり、女性の活躍が今年も目立っていました。決勝戦後には閉会式が執り行なわれ、四明會会長縄田教授からトロフィー、賞状、景品が上位4チームに授与されました。縄田教授の閉会の御言葉でもあった通り、オーバーエイジ枠の先生方の活躍もたくさん見受けられました。

今大会を通じて、参加された皆さんが異なる学科や研究室の方々とソフトボールを通して交流し、親睦を深められたなら幸いです。最後になりますが、今大会の運営に多大なるご協力をしていただいた四明會事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

(学生世話人 細川 拓弥 応用生命科学専攻 修士二回生 (開催時))

京都大学農学部平成31年度入学生保護者懇談会

毎年恒例となりました京都大学農学部入学生保護者懇談会が、本年4月5日（金）午後北部総合教育研究棟益川ホールにおいて開催されました。今年で第8回目となります本懇談会は、農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に四明會が主催して行っております。本懇談会は、保護者の方々に集っていただき新入生のこれからについてのご情報等を教員から提供し、その後に本学院生も加わり保護者の方々から出される質問に答えるという形式で進めています。

本年度は、昨年の182名から大幅に減少し54名の参加となりました。この主な理由は、本年度から入学者にはホームページのみでの案内となり、昨年度まで実施していた京都大学本部による様々な入学関連資料の郵送を止めてしまったことが考えられます。来年度以降、当懇談会の広報の方法を考える必要があります。

さて、本年度の当懇談会は、最初にこの4月からご就任された農学部長・四明會会長の村上章先生のご挨拶から始まり、三つの講演を行いました。具体的には、農学研究科副研究科長の澤山茂樹先生から「農学部カリキュラムの特徴—奨学金、留学制度など含む—」、農学研究科森林科学専攻の高野俊幸先生から「卒業後の就職について」、そして農学研究科副研究科長の北島薫先生から「教員からみた学生生活」というものです。その間に、四明會についての説明も行い、保護者の方々への理解も深まったと考えます。年会費納入の約束も頂いた保護者の方々もおられます。その後の質疑応答では参加人数が少なかったとはいえ、活発なやり取りがありました。

この懇談会のアンケートの回答を見ますと、ほとんどの参加者が懇談会の講演の内容に「満足している」との結果が出て

います。しかし、時間的な制約もあり、本当はもっと詳細な情報を期待されていることも判りました。自由記入欄には、このような懇談会を半年ごとに開催してもらいたい等の要望も書かれていました。このような要望に対しては、今後、参加者確保の方法と共にさらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしていく必要があると考えます。

なお、今回ご参加賜った保護者の方々、講演を行ってくださった先生方、当企画運営を担ってくださった四明會スタッフの方々には深く御礼申し上げますと共に、今後も継続して開催できまようようお願い申し上げます。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、四明會翼下の各同窓会への支援、農学部・農学研究科OB・OGを招聘しての就職セミナーや業界・企業に関する研究セミナー等の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

（四明會副会長 小田 滋晃）



在学生の就職活動支援

平成28年度より、在学生の就職活動支援のため、農学研究科・農学部との共催で懇談会、セミナー等の各種催しを開催しています。

平成30年度は、①6月30日（土）に「インターンシップ&業界・企業研究学内合同セミナー」（理系学生のための就活スタートアップ講座と企業を招いての業界・企業研究セミナー）、②11月15日（木）「自己分析&エントリーシート選考対策講座」（エントリーシートの基本的な考え方や作成方法を学ぶためのセミナー）、③2月2日（土）に「OB/OGを囲んで キャリア・就職懇談会」を開催しました。

③の「OB/OGを囲んで キャリア・就職懇談会」では農学研究科・農学部の卒業生OB・OG（つまり四明會会員）を招いて、業界・企業の特徴、働き方やキャリアについて在学生に語り掛けていただきました。来ていただいたのは農学専攻、

地域環境科学専攻、生物資源経済学専攻、食品生物科学専攻の卒業生4名で、学部3回生、修士1回生を中心に約60名の学生が参加しました。

今後もこのような催しを続けてまいりますので、会員の皆様にもご協力をお願いいたします。

（事務局）



四明會會員数一覽

2019/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所不明	海外
農 学 科	昭和2～平成13	1,765	625	829	13	249	49
林 学 科	昭和2～平成11	1,674	553	772	17	297	35
農 芸 化 学 科	昭和2～平成13	2,966	903	1,550	32	406	75
農 林 生 物 学 科	昭和2～平成17	987	288	494	19	156	30
農 業 工 学 科	昭和2～平成14	2,031	446	1,178	19	328	60
農 林 経 済 学 科	昭和2～平成13	2,617	1,021	953	14	584	45
水 産 学 科	昭和25～平成12	1,119	183	544	12	353	27
林 産 工 学 科	昭和44～平成12	1,005	46	608	36	277	38
食 品 工 学 科	昭和46～平成12	1,246	29	901	21	247	48
畜 産 学 科	昭和51～平成12	647	16	378	13	210	30
熱 帯 農 学 専 攻	昭和58～平成10	90	4	29	5	15	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	230	11	233	9
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	71	2	36	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	339	16	178	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	80	6	60	0
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146	0	61	4	78	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184	0	93	3	86	2
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	0	69	2	97	0
資 源 生 物 科 学 科	平成17～	1,402	1	597	192	609	3
応 用 生 命 科 学 科	平成17～	760	1	445	115	182	17
地 域 環 境 工 学 科	平成17～	540	4	304	64	168	0
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	平成17～	463	0	251	27	184	1
森 林 科 学 科	平成17～	835	1	321	123	387	3
食 品 生 物 科 学 科	平成17～	531	1	300	64	163	3
農 学 専 攻	平成11～	208	0	104	8	79	17
森 林 科 学 専 攻	平成10～	395	1	157	21	159	57
応 用 生 命 科 学 専 攻	平成11～	635	2	416	31	141	45
応 用 生 物 科 学 専 攻	平成10～	363	0	155	14	167	27
地 域 環 境 科 学 専 攻	平成9～	366	0	149	21	131	65
生 物 資 源 経 済 学 専 攻	平成9～	214	0	78	15	96	25
食 品 生 物 科 学 専 攻	平成15～	209	2	105	6	68	28
合 計		24,855	4,134	12,561	946	6,424	790

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員
 熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員
 生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物科学科：学部卒業

農学部創立100周年記念事業への資料等提供について

農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸いです。

四明會平成30年度決算及び2019年度予算

収 入 の 部

(円)

科 目	平成30年度決算		2019年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	5,000,000	4,001,320	4,650,000
名簿売払代	1,800,000	1,200,000	90,000
広 告 料	1,500,000	1,090,000	0
VISA募集手数料	3,000	0	3,000
VISA提携手数料	300,000	256,135	300,000
預 金 利 息	2,000	178	200
寄付金及び雑収入	5,000	138,000	5,000
小 計	8,610,000	6,685,633	5,048,200
前年度繰越金	11,177,423	11,177,423	8,937,013
合 計	19,787,423	17,863,056	13,985,213

支 出 の 部

(円)

科 目	平成30年度決算		2019年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷・製本費	3,000,000	2,673,000	0
名簿発送費	150,000	260,334	153,000
会報等印刷・発送費	2,150,000	2,012,461	2,050,000
球技大会費	140,000	129,076	130,000
会 議 費	200,000	55,590	100,000
謝 金	50,000	27,000	30,000
通 信 費	100,000	64,856	70,000
消 耗 品 費	100,000	89,960	100,000
光熱水量及び借料	220,000	218,214	220,000
振込等手数料等	200,000	157,012	200,000
備 品 費	200,000	0	200,000
人 件 費	3,100,000	3,034,520	3,030,000
雑 費	50,000	204,020	30,000
小 計	9,660,000	8,926,043	6,313,000
次年度繰越	10,127,423	8,937,013	7,672,213
合 計	19,787,423	17,863,056	13,985,213

*平成30年度予算額・決算額と2019年度予算額と比較して大きく異なるのは2019年度は名簿を発行しない年に当たるため。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

現在約400名の方がご利用されています。このカードのご加入・ご利用による手数料は四明會の貴重な収入源ともなっていますので、この機会に是非お申し込みください。カードの提示による特典サービスもあります。事務局にご一報くだされば資料等をお送りいたします。

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (令和元年5月1日現在)

(1) 学部

学 部 学 生				合 計
1年次	2年次	3年次	4年次	
313	313	310	370	1,306

(2) 大学院

修 士 課 程			博 士 後 期 課 程				合 計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
328	345	673	65	51	110	226	899

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
7	4	7	3	12	15	3

2. 入学状況 (平成31年度)

(1) 学 部

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	479	283	762	189	102	291
特色入試	—	36	39	75	8	9	17
計	300	515	322	837	197	111	308

(2) 大学院

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	280	147	427	205	106	311
博士後期課程	90	38	16	54	38	15	53

3. 入学試験合格者最高点・最低点 (総点) (平成31年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	866.05	667.70	713.88

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	平成30年度	累計
旧制(昭和23～昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	311	20,576
合計	—	23,968

(2) 大学院修了者数

修 士 課 程	
平成30年度	累計
331	10,644

(3) 博士学位授与者数

区分		平成30年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	64	2,356
	論文提出者	11	2,873
合計		75	5,870

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部（平成31年3月卒業者）・大学院（平成30年度修了者・研究指導認定退学者）

産 業	区 分	学 部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業			1	2		
	鉱業・建設業	1	3	3	2		
	食料品・飲料・たばこ	2	1	29	19	1	1
	繊維工業			2			
	印刷等						
	化学工業・石油		1	31	19	3	
	鉄鋼業・金属				1		
	機械・電気	2		23	8		
	その他			1	2		
サービス業	電力・ガス			3	1		
	情報通信業・運輸業	12	7	18	3	2	
	卸売・小売業	2	3	14	5		
	金融・保険業	1	2	6	3		
	学術研究、専門・技術	4	2	30	9	10	
	宿泊・飲食業			1	2		
	その他	2	1	10	5	2	
教育	学校教育	1		1		12	5
	学習支援業			1			
公務	国家公務	2	2	6	1		
	地方公務	1	1	7	1	1	
	上記以外						
	男子計	30	23	187	83	31	6
	女子計						
	総合計	53		270		37	

6. 国別外国人留学生数

令和元年5月1日現在

国 名	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アフガニスタン			1		1
イラン		1			1
インド		1	2		3
インドネシア		13	11		24
エジプト			1		1
オーストラリア			1		1
カンボジア		2	1		3
ケニア		4	2		6
ザンビア		1			1
ジンバブエ		1			1
スペイン			1		1
タイ		2	2	2	6
ドイツ				1	1
パラグアイ			1		1
バングラディシュ		2	10		12
フィリピン			1		1
フランス				3	3
ベトナム		1	5		6
マレーシア		1	1		2
ミャンマー		5	5		10
モザンビーク		1			1
韓国	10	7		2	19
台湾		8	12		20
中国	9	43	32	14	98
米国		1	1		2
総 計	19	94	90	22	225

農学研究科教員人事

平成30年8月1日				
岸野 重信	昇任	応用生命科学専攻	応用微生物学講座	発酵生理及び醸造学分野
村井 正俊	昇任	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	生物機能制御化学分野
下野 嘉子	昇任	農学専攻	耕地生態科学講座	耕地生態科学講座 雑草学分野
西村 和紗	採用	附属農場		
平成30年10月1日				
中野 龍平	採用	附属農場		准教授
平成30年11月1日				
内藤 大輔	採用	国際林業研究センター共同講座（産学共同）		特定准教授
小野田 雄介	昇任	森林科学専攻	森林管理学講座	熱帯林環境学分野
平成30年12月1日				
榊谷 貴洋	採用	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	生物機能制御化学分野
上高原 浩	昇任	森林科学専攻	生物材料機能学講座	複合材料化学分野
平成31年1月1日				
加藤 大明	採用	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	栽培植物起原学分野
平成31年2月1日				
高瀬 隆一	採用	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野
吉岡 まり子	昇任	森林科学専攻	生物材料機能学講座	複合材料化学分野
中川 究也	配置換	工学研究科	化学工学専攻	分離工学分野
平成31年3月1日				
渡邊 哲弘	昇任	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	土壌学分野
平成31年3月16日				
EPRON, Daniel Claude Andre	採用	地域環境科学専攻	生物環境科学講座	森林水文学分野
平成31年3月31日				
赤木 剛士	辞職			
鍋島 朋之	辞職			
安宅 未央子	任期満了			
GOEL, Sandeep	任期満了			
勝山 正則	任期満了			
荒 武	任期満了			
奥田 綾	任期満了			
河田 照雄	定年退職			
植田 和光	定年退職			
平井 伸博	定年退職			
三上 文三	定年退職			
稲村 達也	定年退職			
川島 茂人	定年退職			
間藤 徹	定年退職			
左子 芳彦	定年退職			
久米 新一	定年退職			
山田 雅保	定年退職			
平成31年4月1日				
木岡 紀幸	昇任	応用生命科学専攻	応用生化学講座	細胞生化学分野
吉田 天士	昇任	応用生物科学専攻	海洋微生物学講座	海洋分子微生物学分野
池田 俊太郎	昇任	応用生物科学専攻	動物遺伝増殖学講座	生殖生物学分野
太田 毅	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	生体機構学分野
日本 典秀	採用	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	生態情報開発学分野
佐々木 努	採用	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	栄養化学分野
田中 義行	採用	農学専攻	園芸科学講座	蔬菜花卉園芸学分野
寺本 好邦	採用	森林科学専攻	生物材料機能学講座	生物材料化学分野
鬼頭 弥生	採用	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	農業食料組織経営学部分野
塚野 千尋	昇任	食品生物科学専攻	食品生命科学講座	生命有機化学分野
石井 統也	採用	農学専攻	品質科学講座	品質評価学分野
森本 大地	採用	応用生物科学専攻	海洋微生物学講座	海洋環境微生物学分野
村上 章	併任	大学院農学研究科長・農学部長		
秋津 元輝	併任	教育研究評議会評議員		
令和元年5月1日				
西山 総一郎	採用	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野
中村 公人	昇任	地域環境科学専攻	地域環境管理工学講座	水環境工学分野
令和元年6月1日				
横井 伯英	採用	応用生物科学専攻	動物遺伝増殖学講座	動物遺伝育種学分野
渡邊 大輔	採用	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野

京都大学農学部教育研究基金及び 京都大学農学研究科附属農場基金の 醸金・事業状況の報告

会員の皆様には平成30年度も両基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。農学部教育研究基金は81件の寄付を頂いています。収支は下記の通りです。昨年度もお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援しています。その結果、24名を国際研究会等に派遣しています。また、その他、1名の留学支援を実施しました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。「国際交流室行事用」は、本研究科国際交流室が実施しています、留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用しています。

附属農場基金につきましても37件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2019年8月

京都大学農学部長・農学研究科長 村上 章

農学部教育研究基金

収支（平成17～30年度）

年 度	寄 附 金		研究会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成17	370	10,339,000	—	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	2	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	6	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	5	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	7	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	6	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	18	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	14	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	8	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	14	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	39	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	66	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	66	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	66	3,224,966	97,749,277	
（累計）	1,747	118,291,441	317	20,542,164	97,749,277	

平成30年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	国際研究会等参加助成金	2,020,000	詳細は次ページ参照
	留学支援助成金	180,000	詳細は次ページ参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	100,000	
	国際交流室行事用経費	667,106	
	その他	257,860	
計		3,224,966	

国際研究集会等参加助成金内訳

氏名	学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
佐藤 愛	博士1回生	17th Food Colloids Conference	100,000	イギリス
HO HSIN HSUAN	修士2回生	17th Food Colloids Conference	100,000	イギリス
石井 統也	博士2回生	17th Food Colloids Conference	100,000	イギリス
DIMAS FIRMANDA AL RIZA	博士3回生	CIGR 2018 (XIX World Congress of CIGR)	100,000	トルコ共和国
MAIAH MOHAMMAD SUMON	修士2回生	CIGR 2018 (XIX World Congress of CIGR)	100,000	トルコ共和国
NENG TANTY SOFYANA	博士2回生	2018 AOCS ANNUAL MEETING	100,000	アメリカ合衆国
INDRAWAN CAHYO ADILAKSONO	修士2回生	The 9th International Symposium on Mechatronics for Agricultural and Biosystems Engineering (ISMAB) 2018	50,000	大韓民国
元木 航	修士2回生	2018 Annual Meeting of the Korean Society for Plant Biotechnology	50,000	大韓民国
寫田 栄樹	博士1回生	6th World Congress of Environmental and Resource Economists	100,000	スウェーデン王国
三木 佑果	学部4回生	第51回国際生殖生物学会年次大会	100,000	アメリカ合衆国
上田 遥	博士2回生	Society for Nutrition Education and Behavior 51st Annual Conference	100,000	アメリカ合衆国
勝俣 沙智	修士2回生	18th Asian Australasian Animal Production Congress	50,000	マレーシア
小田 昌希	博士2回生	30th International Conference of Agriculture Economists	100,000	カナダ
山崎 彬	修士2回生	第30回国際園芸学会議	100,000	トルコ共和国
月足 元希	修士2回生	2018年度リボスクレアーゼH国際学会	100,000	ポーランド共和国
宮崎 薫	修士2回生	2018 World Conference on Timber Engineering	50,000	大韓民国
KADER MOHAMMAD ABDUL	博士1回生	21st ISTRO International Conference in Paris	100,000	フランス共和国
TSENG, YI-TING	博士2回生	11th International Congress on Aerobiology	100,000	イタリア共和国
福重 雄大	修士2回生	11th International Congress on Aerobiology	100,000	イタリア共和国
御手洗 悠紀	博士2回生	第15回日中韓農業史学会国際大会	50,000	大韓民国
上田 遥	博士2回生	Eighth International conference on Food Studies	70,000	カナダ
坂知 奈美	修士1回生	第9回キノコの生物学および生産に関する国際会議	50,000	中華人民共和国
井上 智香子	修士1回生	第9回キノコの生物学および生産に関する国際会議	50,000	中華人民共和国
北尾 朋広	修士1回生	土-水-構造相互作用のモデリングのためのマテリアルポイント法に関する第2回国際会議	100,000	イギリス
計			2,020,000	

留学助成支援金内訳

氏名	学年	プログラム名	金額(円)	派遣先
藤川 真央	修士1回生	USDA-ARS Thad Cochran Southern Horticulture Laboratoryへの研究指導委託	180,000	アメリカ合衆国
計			180,000	

平成30年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	植田 芳樹	杉浦 明	橋本 渉	丸山 利輔
赤松 美紀	鎌田 隆義	祖田 修	原 完	宮川 恒
安藤 基成	茅原 正毅	高橋 強	廣川 治	村井 耕二
池田 昇司	鬼頭 誠	沈 金虎	廣田 雅司	森本 茂俊
石井 俊道	久馬 一剛	栃原 邦匡	福田 和久	安井 孝
伊藤 七郎	久守 藤男	中川 望	福永 拓也	柳井 稔
井上 樹芳	桑島 士郎	中川 好秋	藤野 舜一	矢野 秀雄
井上 浩	河内 英一	中野 隆人	伏見 清昭	山口 務
今田 智彦	小谷 明司	中野 尚志	藤原 良一	山本 喜一
井村 周一	小西 広顕	永野 由祐	古瀬 浩介	吉岡 まり子
植野 栄治	駒野 徹	仲矢 順子	古田 保	吉永 直子
上原 章敬	齋藤 健	鳴澤 成泰	堀江 大輔	若林 宏
裏出 令子	坂口 守彦	縄田 栄治	益田 昌史	和田 茂彦
大西 近江	阪本 寧男	西岡 正恵	松野 隆一	渡辺 弘之
大島 誠一	佐々木 義之	西田 律夫	松本 和男	
岡松 直勝	佐々木 隆造	西村 一三	真宮 靖治	

※複数回入金された方がいますので、件数と入金者数は一致していません。

以上78名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～30年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	2	1,882,275	4,777,305	
（累計）	335	8,728,860	4	3,951,555	4,777,305	

平成30年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	木津農場設置（備品）	1,836,000	クイック光合成測定器
	消耗品（印刷用紙）	46,275	基金に係る支援願い・印刷用
	計	1,882,275	

平成30年度入金者一覧

（五十音順）

赤松 美紀	鎌田 隆義	祖田 修	縄田 栄治	水落 章
荒 武	久馬 一剛	楯谷 昭夫	西村 一三	宮川 恒
安藤 基成	久守 藤男	栃原 邦匡	平林 征男	森本 茂俊
池橋 宏	桑島 士郎	中川 好秋	平光 清恵	矢野 秀雄
伊藤 七郎	小谷 明司	中野 隆人	福永 拓也	山崎 稔
井上 浩	相良 直彦	中野 尚志	伏見 清昭	
植野 栄治	左近 賢人	永野 由祐	堀江 大輔	
上原 章敬	佐藤 淳	鳴澤 成泰	益田 昌史	

以上 37 名



—2019夏北部構内点景—

第14回 京都大学 ホームカミングデイ

いどむ
テーマ “挑”

令和元年11月2日(土) 京都大学百周年時計台記念館周辺

昨日の自分を変えたい、よい環境を作りたいなど、私たちは日々いろいろな挑戦をしています。その一方で、夢をかなえたいなどの大きな挑戦となると、前に踏み出せないことや、途中で立ち止まってしまうこともあるのではないのでしょうか。

今年のホームカミングデイでは、「挑む」に焦点をあて、その過程にある意味や意義を考えたいと思います。皆さまがまさに今向き合っている夢や、こころの底に抱いている夢に対して、心新たに「挑む」一歩の後押しになればと思います。

ー メインプログラム ー

10:00～ 講演会・パネルディスカッション ※先着順

講師 : 建築家 安藤 忠雄

パネリスト: 建築家 安藤 忠雄

総長 山極 壽一

コーディネーター: 教育学研究科教授 桑原 知子



12:00～ 京料理を味わう **事前申込み**

「たん熊北店」による特別弁当 (料金: 未定)

京都大学マンドリンオーケストラによる演奏



ー 当日開催イベント ー

◆アカデミアート ～学問と芸術の融合～
13:15～

第一部: 京都大学交響楽団による演奏と
SPEC (京大生チャレンジコンテスト)
採択者による発表

第二部: 京都大学合唱団OB・OGによる合唱

◆施設見学

9:30～ 総合博物館

10:00～ 附属図書館

◆くすのき秋祭 11:00～17:00

時計台前庭のクスノキを中心に飲食のブースや
ステージを展開

◆清風荘見学 **事前申込み**

①13:00～14:00 ②14:00～15:00 ③15:00～16:00
(各回40名)

◆その他

京大生に挑戦!
謎解きスタンプラリー

などを企画しております。

※京料理を味わう・清風荘見学は、事前申込み・抽選制です。

※上記のイベント情報は変更になる場合がございます。

申し込み方法等の詳細は、8月下旬に京都大学同窓会HP・Facebookに掲載予定です。



京都大学同窓会事務局

電話: 075-753-2029・5563

FAX: 075-753-2286

E-mail: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

京都大学同窓会HP

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学同窓会Facebook

<http://www.facebook.com/KyodaiAlumni>



四明會會則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
(1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費（入会金及び在学中の会費）
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

四明會 2019年度役員名簿

会 長 村上 章
副 会 長 小田 滋晃
監 事 飯田 訓久
〃 海道 真典

常任委員

農 学 専 攻 丸山 伸之
森 林 科 学 専 攻 柴田 昌三
応 用 生 命 科 学 専 攻 木岡 紀幸
応 用 生 物 科 学 専 攻 廣岡 博之
地 域 環 境 科 学 専 攻 飯田 訓久
生 物 資 源 経 済 学 専 攻 小田 滋晃
食 品 生 物 科 学 専 攻 井上 和生 (総務)

委 員

農 学 科 吉川 貴徳
林 学 科 坂野上なお
農 芸 化 学 科 木岡 紀幸
農 林 生 物 学 科 海道 真典
農 業 工 学 科 飯田 訓久
農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
水 産 学 科 吉田 天士
林 産 工 学 科 築瀬 佳之
食 品 工 学 科 神戸 大朋
畜 産 学 科 杉本 実紀
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 上原 孝俊
〃 尾形 里加

事 務 局 沖田 義孝
〃 児玉富美子

◎事務局より

昨年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、今回その報告を初めて掲載いたしました。いかがだったでしょうか。

今後も会員の皆様の近況等を掲載し、紙面の充実を図りたいと考えています。皆様からのご寄稿をお待ちしています。

10ページに会員数一覧を掲載しましたが、約3分の1の方が住所不明となっています。住所不明の方のお名前をホームページ (<http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>) に掲載しています。消息をご存知の方はご本人に事務局まで連絡するようお願いください。

ホームページには住所不明者だけでなく、いろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。

今年3月31日付けで事務職員の三田久子さんが退職しました。三田さんは平成25年4月より6年間在職し、四明會発展のために大変ご尽力されました。今までのご苦勞に感謝するとともに、今後の益々のご健康とご活躍をお祈りします。後任は4月1日より

児玉富美子さんが担当しています。児玉さんは熱帯農学専攻と地域環境科学専攻事務室に長年勤めておられたのでご存知の方も多いのではないのでしょうか。

事務局は写真のような雰囲気です。お気軽にお立ち寄りください。



四明会たより (2019年8月発行)

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>